

日本の未来を見据えて撃つ！
そんなあなたにホットな話題をお送りする
最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行：ネットハウス
〒286-0825 千葉県成田市市新泉 14-3
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334
[平日] 10:00~19:00 [土曜] 12:00~17:00
<http://www.nihoncity.com>
成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市
千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、四街道市
酒々井町、栄町、小林、安良、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町
発行部数：500,000部

秋の吉野山を走る！ 美しい紅葉と歴史の秘話に満ちた世界遺産の町に感動！

「日本のレイライン」に関する記事を本紙に連載してから、1年以上の年月が経ちました。元伊勢に関する記述も来月で終了し、最終章も来年早々に完結することから、それまでに記事の中で取り上げた元伊勢を全て自分の目で確かめておこうと、また訪れていない神社を10月下旬、3日間で一気に旅しました。そして最後に残された和歌山県、日前神宮の摂社、浜宮神社を訪ねたことが、吉野へ向かうきっかけとなりました。

海南のさびれた経済状況に唖然

浜宮神社は和歌山駅から10kmほど南の海南駅近くの海側に建立されています。海南と言えば大阪に近いイメージですが、関西国際空港から行くと、電車では2回乗り換えなければならず、1時間10分ほどかかってしまいます。ところが京都からは熊野の新宮行き特急を使えば、乗り換えなく1時間38分で行けることがわかり、京都で仕事をした翌日の朝、海南へ向かうことにしました。そして、ついでに吉野まで行ってしまおうことを思いついたのです。これまで籠神社や高野山、熊野の各地を見て回ったことはありますが、何故かしら、空海が高野山に向けて歩み始めた原点でもある吉野の地をまだ訪れたことがありませんでした。

旅の当日、朝一番の特急に乗って、和歌山方面に向かいました。JR 海南駅で電車を降り、駅前のロータリーから周囲を見渡すと、意外にも町が綺麗に整備され、道路も広く、無電柱化も進んでいることに感心しました。ところが、驚くことに人影がないのです。そして駅前の通り沿いのビルは、どこもかしこも空き家だらけです。商売が成り立たないのでしょうか。タクシーの運転手に話を聞いてみると、ここ最近、急激に人口が減少して人がいない町になってしまったとのこと。それにしても、和歌山の経済状況が貧窮していることには驚きました。こんな素敵な海に近い町に、人が住みつかないことを危惧しつつ、浜宮神社で祈りを奉げてから海南を後にして、吉野へと向かいました。

言葉で言い尽くせない吉野の魅力

和歌山駅から和歌山線に乗っ

て、紀ノ川沿いを2時間ほど旅すると吉野口に着きます。そこから近鉄吉野線に乗り換えて吉野へ向かい、最後に吉野ロープウェイに乗ると吉野山です。ロープウェイから眺める11月初旬の吉野は、紅葉の季節が始まる時でもあり、山の所々が真っ赤に染められている景色は、実に美しく、感動して見入ってしまいます。吉野と言えば、日本一の桜の名所として有名です。お花見のシーズン中は、日本最古と言われる旧式のロープウェイが、1時間半待ちになるほどの人気スポットです。

吉野と熊野三山を結ぶ「大峯奥駈道」は、古代より修験道の霊場として多くの修行者が行き来してきました。そして2004年、吉野を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」は世界遺産に認定され、国際的な脚光を浴びることになったのです。その際、吉野山に建立された金峯山寺蔵王堂、吉水神社、吉野水分神社、金峯神社も遺産登録され、比類なきツアースポットとして、その名を世界に広めることになりました。

また、吉野は弘法大師が愛された山であり、吉野山金峯山寺から高野山金剛峯寺まで弘法大師が歩いたおよそ56Kmの道は、今日「弘法大師の道」と命名され、その山道には英語で“Kobo Trail”と書かれた札が随所に立っています。弘法大師の時代以前でも、皇族による吉野への行幸は史書に記録されており、応神天皇による吉野の初見を筆頭に、持統天皇に至っては32回も行幸されたことが日本書紀に記されています。また、吉野に関する歌は多数、万葉集に収められ、柿本人麻呂や山部赤人、大伴家持など、多くの歌人が吉野をこよなく愛していたことがわかります。

美しく、神秘的な自然の力を有する吉野の聖地は、歴史を振り返ると悲劇の場所でもありました。鎌倉時代では、源義経が弁慶と共に吉野山に潜伏したことは、あまりに有名です。その後、吉野は再三、山ごと焼かれるという歴史を繰り返します。鎌倉後期においては鎌倉幕府軍により、吉野山はほぼ全焼しました。また、14世紀には足利方に攻め入れられ、再度、吉野山は



全焼してしまうのです。そのため、吉野では古代の建造物は見当たらず、年代の新しいものに造り替えられてきています。それでも吉野の神秘的な地の利と比類なき絶景は、多くの人を魅了し続けてきたのです。

それにしても、吉野という地名は不思議です。吉野山周辺からは吉野川が流れ、紀伊水道へ注がれていますが、その川の名前は途中から紀ノ川に変わります。しかも和歌山の河口から西方に50km、紀伊水道を越えると、そこには広大なデルタをもつ四国の吉野川が存在します。西日本第2の標高を誇る剣山から、穴吹川や大歩危小歩危を介して放流される日本有数の河川は、紀ノ川の上流を流れる吉野川と同名です。そしてどちらも空海が闊歩したお膝元とも言える地域を流れる一級河川なのです。これは偶然の一致なのでしょうか。

もうひとつの不思議は、吉野の著名な神社が、他の聖地と同一線上に並んでいるということです。吉野では、つい近世まで山頂に近い金峯神社周辺に集落が栄えていたことが知られています。その金峯神社は熊野三山の象徴の一つである熊野那智大社の真横に流れ落ちる那智大滝と同じ経度に存在します。また、金峯神社と四国剣山の頂上を結ぶと、その線は伊勢の斎宮を通り抜けます。つまり、金峯神社に象徴される吉野は、熊野だけでなく、剣山や伊勢神宮とも結び付く重要な聖地として認知されていた可能性が見えてくるのです。また、吉水神社は、南方では古代の指標として用いられた紀伊大島の東端と、日本海側の三方五湖を結ぶ線上にあります。吉野が四国とも結び付き、聖地化された理由が、レイラインの考察からも見えてくるのではないのでしょうか。

紅葉の吉野はイベントで一杯！

京都から和歌山経由で吉野に旅したことから、宿泊する吉野荘湯川屋に到着した時点では、既に午後3時近くになっていました。チェックインの際、ホテルの支配人から吉野におけるイベントの数々の説明を受けました。まず、修験道の総本山である金峯山寺において、世界遺産登録10周年記念として、国指定重要文化財である金剛蔵王大権現3体の特別御開帳が行われており、朝は6時半から行われる朝座勤行にも参加できるとのこと。世界遺産登録されている南朝皇居の吉水神社も必見であり、義経かくれ塔の更に奥の山上に建立されている金峯神社も、そこまで行くのは大変だが、素晴らしいということでした。日没まで後、2時間少々。明日の朝には大阪へと向かうため、待たなしです。幸いにも温かい曇り空。早速半袖のランニングウェアに着替えて走り出しました。

宿を出ると、すぐ北側に金峯山寺の蔵王堂が見えてきました。国宝仁王門は残念ながら修理中ということで、足場と養生シートに隠されていましたが、金剛蔵王大権現の御開帳は今しか見るチャンスがないと思い、早速、蔵王堂の中を見学。すぐに境内を後にし、次に向かったのが吉水神社です。



吉水神社 拜殿

豊臣秀吉公が「絶景じゃ!」と声をあげた一目千本は、門をくぐると右側にあり、そこから眺める紅葉の吉野は、素晴らしいものでした。また、吉水神社境内の奥にある日本最古の書院建築を誇る吉水神社書院では、後醍醐天皇の玉座を見ることができただけでなく、豊臣秀吉公が愛用した金屏風も展示され、歴史の重みに感動を覚えました。また、書院の北側には、後醍醐天皇が京都へ向かって祈り、崩御された際には忠臣達が号泣されたと言われる北閼門があります。吉水神社を後に、次に桜本坊を訪ね、院内の展示物を興味深く見ているうちに、時間が過ぎるのを忘れてしまったようです。

吉野山を走る2時間の弾丸ツアー

大変なことに気が付きました。



金峯神社の鳥居

後、1時間で日没だということにまだ、吉野の中心地を見学しており、山上の金峯神社どころか、その手前にある花矢倉の展望台も見えていないのです。すぐに坂道をダッシュで走り始め、勝手神社跡を過ぎてからは右側の急な坂を上りますが、以外にも勾配がきつく、体力が消耗します。その後、緩やかなS字を描く坂を走り続けると、街並みが一望できる絶景ポイントの花矢倉展望台に到達します。紅葉の美しい山道を通して更に上り坂を走り続けると、水分神社が目に入りました。既に時刻は4時半を回っています。自分自身に檄を飛ばして一気に、源義経が弁慶と共に身を隠した義経かくれ塔へと向かい、境内で小休止。あたりはうす暗くなり始め、日没の時間が近づいてきたことから、すぐに金峯神社へと向かいました。

修験道のメッカである金峯神社の境内へ到達後、ここでUターンしてはもったいないと思い、有無を問わず、金峯神社脇に見える石畳の山道を上り、奥千本、そして青根ヶ峯の頂上を目指すことにしました。既に周囲は暗くなってきたことから、急いで石畳を走って上りつめると、途中から工事の道へと変わり、所々に“KOBOTRAIL”という英語の表示が木にかかっているのが目につきます。空海もこの周辺を早歩きしていたのかと思うと、元気が湧いてきました。そして山道を駆け抜けて、青根ヶ峯の頂上を制覇することができました。時刻はちょうど5時。周囲は、もう暗闇になりつつあり、そこからは、最後の力を振り絞って一気に山を下りました。

翌朝、早朝5時半には目を覚まし、生まれて初めて、朝座勤行なるものに6時半から参加しました。九州大学から来たという日本語を流暢に話す12人の外国人留学生と6人の日本人、合わせて16人が朝座勤行に参加し、一緒に祈りを捧げました。45分間という短い時間ではありましたが、鐘の響きに心を無にしたがら、お経を読み、祈る朝のひとは、フレッシュに感じられました。あっという間の吉野の旅でしたが、不思議と心は充実感に満たされました。(文中島尚彦)

元伊勢と三輪山のレイライン Vol.Ⅱ

神宝の行方を示す元伊勢の繋がり

歴史のミステリーに包まれてきた元伊勢の謎に迫る連載の第2弾です。三輪山の麓、笠縫邑から豊鍬入姫命に託されて始まり、80余年という長い年月をかけた御巡幸の旅路には、およそ28か所の遷座地が含まれています。それらの全てがレイライン上に位置することは、地図上に線引きするだけで、簡単に理解することができ、転々と聖地が遷り変わったのには、意外にも重要な意味が含まれていたのです。古代の謎が今、レイラインにより解き明かされようとしています。

伊豆加志本宮のレイライン (与喜天満神社)

吉佐宮に御巡幸されて4年を経過した後、北方への長い御巡幸の旅を経て、神宝は再び大和国の伊豆加志本宮に戻ってきます。倭姫命世記には崇神天皇43年、「倭国に遷りたまひ」と記載されています。伊豆加志本宮の比定地については笠縫とする説もありますが、長谷寺周辺の初瀬である可能性が高いようです。初瀬は三方を山に囲まれ、初瀬川も流れる景勝地であり、東西の交通の要所でもあります。また、神の籠る聖地として名高く、古代より長谷寺を筆頭に、与喜天満神社、滝蔵神社、長谷山口坐神社などの著名な神社が存在します。さらに後述するレイラインが、初瀬の長谷寺に隣接する与喜天満神社の真裏を三輪山と同緯度で通り抜けることなども、初瀬を有力視する根拠のひとつです。



「御巡幸図説」には、長谷寺の近郊に伊豆加志本宮があったことが窺え、長谷寺へ向かう参道と県道の交差点には大小二つの鳥居の礎石が並んでいます。この鳥居跡の周辺に伊豆加志本宮があったという言い伝えが残されていることに注目です。長谷勘奏記裏書には、天照大神が最初に降臨した地が初瀬の山であると伝えられていることから、この鳥居跡

から山へと向かう参道が、古代でも存在していたのでしょう。聖なる三輪山を守護するために笠縫邑から始まった御巡幸は、その東西南北を守り固めるという主旨に則り、三輪山の真東にあたる初瀬周辺を御巡幸の地と定め、そこを伊豆加志本宮と呼ぶようになったと考えられます。



三輪山の北方は既に吉佐宮によって守られていることから、次は東方の伊豆加志本宮を守護することになりました。その後、南方の紀伊国、そして西方の名方浜宮（岡山）に向かうことになります。よって、まず三輪山東方の御巡幸地が探し求められ、その拠点として初瀬川の渓流沿いにある長谷寺周辺の山が特定されたのではないのでしょうか。古代、大和国から東方へ向かう際には、初瀬の伊勢辻と呼ばれる通りを抜けて、伊勢や東海道へと向かっていたことから、初瀬は大事な旅の拠点でした。しかも初瀬川沿いの山は、三輪山と同緯度にあたることから、レイラインの視点からもわかりやすい位置にあったのです。

長谷寺の東400mほどの所には、神山として守られてきた与喜山の中腹に与喜天満神社が建立されています。長谷寺へ向かう参道のつきあたりに見える与喜天満神社の鳥居をくぐると長い階段が続き、左手に境内が見えてきます。そして境内の奥には鷲形石（がぎょういし）、沓形石（くつがたいし）、掌石（たなごころいし）と呼ばれる三つの磐座があります。平安末期に書かれた「長谷寺縁起文」には、この鷲形石に天照大神が降臨されたことが記載されています。それ故、古くから山そのものが天照大神の御神体として拝され、与喜天満神社は長谷寺の管轄下に置かれてきました。これらの背景から、与喜天満神社の周辺こそ、伊豆加志本宮の比定地である可能性が高いと考えられるのです。

伊豆加志本宮の遷座地が見出された際に用いられたと考えられるレイラインは、3本の線によって構成されています。まず、三輪山を通り抜ける同緯度の線を引きます。その線は東方に向かって伊勢湾では神島に至り、西方は二上山を指していきます。聖なる神山として不動の位置を占めていた三輪山と同緯度にあるということ自体、今昔もって重大な意味を持っています。その緯度線は、三輪山から東方に向かうと、最初の水源地である初瀬川を越え、川沿いの与喜山に建立された与喜天満神社境内の真裏を通り抜けていきます。与喜天満神社は、三輪山のレイライン上にあったのです。



伊豆加志本宮の拠点を定めるためには、その緯度線上に東西の経度を特定する必要があります。指標として用いられたのが、まず、琵琶湖ではなかったかと推測されます。古代の琵琶湖岸を特定することは難しいですが、瀬田川が流れ出る地点周辺が、最南端に該当するのではないのでしょうか。そのほど近くには今日、石山寺が建立されています。琵琶湖最南端から真南に向かって線を引くと、ちょうど与喜天満神社にあたります。つまり、三輪山の緯度線と琵琶湖の最南端を通る経度線が交差する地点に、伊豆加志本宮が建立されたと考えられるのです。

更にもう1本のレイラインが存在します。天孫降臨の聖地として名高い高千穂神社と剣山を結ぶ線が、与喜天満神社境内の北側において、ちょうど三輪山の緯度線と交差しているのです。伊豆加志本宮に至る直前の遷座地は籠神社と真名井神社に比定される吉佐宮であり、剣山が重要な指標として用いられた可能性が高いことは前述したとおりです。その吉佐宮に結び付けられていた剣山が、次の遷座地である伊豆加志本宮の地を特定する際にもレイラインの指標として用いられていたことに注視する必要があります。剣山が当時、突如として重要な存在になってきたことの証と言えるでしょう。



もし、初瀬の地、与喜天満神社周辺に伊豆加志本宮があったという推測が正しいと仮定するならば、その場所は三輪山に直結する聖地であり、様々な神宝が埋蔵されていることで知られる神島と、聖山として崇められている二上山、日本最大の水源である琵琶湖だけでなく、四国の聖山である剣山と天孫降臨の地、高千穂にも紐付けられていたことになります。特に、吉佐宮のレイラインで初めて浮上した剣山が、与喜天満神社のレイラインでも同じく名を連ねていることには大切な意味が隠されていると考えられます。また、神島が三輪山と与喜天満神社を結ぶレイライン上に存在することも重要です。何故なら、沖ノ島と同様に、人々が近づきづらい離島に神宝を秘蔵することは古代の常道手段であったからです。よって、神島と同様に与喜天満神社と紐付いている摩耶山や剣山にも、神宝が隠された可能性が見えてきます。レイラインの考察から、伊豆加志本宮も神宝に関わる重要な拠点のひとつであったことがわかります。

宇多秋宮のレイライン (阿紀神社)

倭姫命が倭国にて豊鍬入姫命より御巡幸を引き継がれた後、満を持して御室嶺上宮（大神神社）を離れ、最初に到達した東方の遷座地が、宇多秋宮に比定される阿紀神社です。奈良県の大宇陀町にある神社の周辺一帯は阿紀とも呼ばれ、古代宇陀の中心地でした。JR 榛原駅から南へ7kmほどの場所に阿紀神社は建立されています。榛原からタクシーに乗って阿紀神社へ向かうと、途中、道路に沿って本郷川が流れる美しい光景が目に入り、阿紀神社が水源の豊かな地に建立されたことがわかります。また、宇陀は万葉集に、その地名が記されていることでも有名です。タクシーの運転手が自慢げに、「軽皇子安騎野に宿りたまひし時、柿本朝臣人麻呂の作れる歌」と口ずさんでいたほどです。

阿紀神社では天照大神が本殿に、相殿には秋姫命、八重思兼命、天手刀男命が祀られています。天照大神社殿は神明造りであり、堅魚木を10本用いて伊勢神宮と同じ建て方を踏襲しています。阿紀神社が古くから重要視されたのは、単にその場所が三輪山に近く、交通の要所であったか



らだけでなく、倭姫命が到来する以前、そこに神武天皇も訪れ、宇陀の一角に瓊瓊杵尊の母にあたる秋津姫命と天照大神を祀ったからではないのでしょうか。「阿紀神社御鎮座口訣之事」には、神武天皇が天の香山の土を用いて器を作らせ、酒を注いで供え、天神地祇を祀ったことが記載されています。また、「皇大神宮はじめて天降り坐す本所なり」と明記されていることからしても、阿紀神社は伊勢神宮と同様に、天照大神と秋津姫命を祀る重要な場所として古代から認知されていたことがわかります。

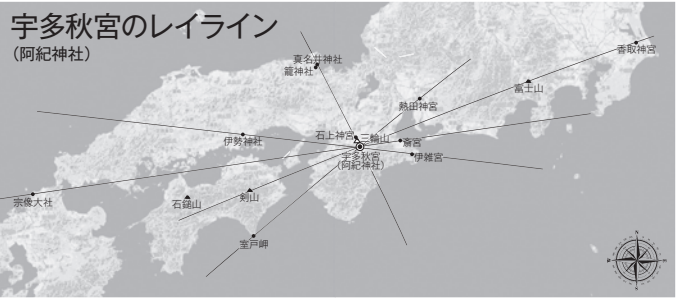
阿紀神社の周辺は、元来、宇陀の中心であり、そこは皇大神宮の神戸でもありました。太神宮緒雑事記には、「時に国造り、神戸等を進る」とも記され、境内の石燈籠には「神戸大神宮」と刻まれています。1,000戸以上にも及ぶ神宮の神戸は、そのほとんどが伊勢周辺に散在し、畿内の大和国においては「宇陀神戸」の15戸が、唯一の神戸だったのです。それ故、宇陀の地が重要な役割を果たしていたことに、違いはありません。では何故、宇陀の阿紀神社周辺に古代の民が目留めたのでしょうか。もし、神武天皇が本当に天神地祇を祀るために宇陀の地に目を留めたとするならば、それなりの特別な理由や根拠があるはずです。

阿紀神社の地が極めて重要であった理由は、その場所を通り抜けるレイラインを検証することによって理解することができます。特筆すべきは、富士山頂と剣山を結ぶレイラインです。このレイライン上に阿紀神社が建立され、東の太平洋側では香取神宮にあたります。香取神宮では主祭神として経津主大神が祀られており、鹿島神宮と同様に、神剣の由緒に富む古代聖地の代表格です。その香取神宮を結ぶレイラインの西側には、富士山をはじめ、阿紀神社と剣山が並んでいます。つまり、阿紀神社は日本最高峰の地の力だけでなく、神宝の由緒とも紐付けられ、それがレイライン上に並ぶ剣山という山の名称にも象徴されていたのです。神武天皇の時代では既に、西日本

伊豆加志本宮のレイライン (与喜天満神社)



宇多秋宮のレイライン (阿紀神社)





阿紀神社の優雅な境内

で2番目の標高を誇る剣山が聖なる山として認知され、山の周辺に集落が築かれ始めていたのかもしれませんが。いずれにしても、富士山と剣山を結ぶレイラインは、阿紀神社が重要な存在であったことを証しています。

阿紀神社を通るレイラインは、その他にも複数存在します。まず、岡山の伊勢神社と伊雑宮を結ぶ線に注目してみました。伊雑ノ浦に面した伊雑宮は熊野の神倉山と共に太平洋に面した古代のランドマークであり、海を渡って渡来してきた古代の旅人は、そこから紀伊半島に足を踏み入れたと考えられます。国生みの原点にまでも遡る可能性がある伊雑宮であるだけに、古代の重要な拠点の多くは、そこを指標として特定されました。その伊雑宮と、元伊勢の最西端遷座地として豊鍬入姫命が御巡幸された伊勢神社を結ぶと、その線上に阿紀神社が存在します。すると剣山と富士山、そして伊勢神社と伊雑宮を結ぶ2本のレイラインのみで、その交差点に阿紀神社を特定できることがわかります。



阿紀神社 本殿

次に宗像大社と斎宮を結ぶレイラインを検証すると、この線も、阿紀神社と並んで1本の直線になっていることがわかります。斎宮の場所を最終的に特定する際に、阿紀神社を基点として宗像大社に紐付け、そのレイライン上に斎宮が見出されたと想定されます。また、室戸岬と熱田神宮を結ぶレイラインは阿紀神社の東に1kmほど離れた箇所を通り抜けることから、レイラインの誤差の範疇であるとも考えられます。すると、熱田神宮の地を特定した際に、阿紀神社と室戸岬を結ぶ線がレイラインの参考として用いられた可能性があります。

最後に、真名井神社と石上神宮も検討の余地があります。真名井神社は既に、籠神社の奥宮として御巡幸地の一つとなっています。そこから阿紀神社に線を引くと、そのレイラインは神宝の宝庫とも言われる石上神宮から500mほど離れた地点を通り抜けることからレイラインとして認知されていた可能性があります。

いずれにしても、剣山と富士山、そして伊雑宮と伊勢神社を結ぶ2本のレイラインが交差する

地点は地の力を継承する重要な場所となる故、神武天皇はそこで祭祀活動を行い、後世においては阿紀神社が建立されるに至ったと考えられるのです。

宇多佐佐波多宮のレイライン (篠畑神社)

阿紀神社から北に進み榛原駅を越えた後、更に4kmほど北東方向へ進むと、左側に小高い杜が見えてきます。近年建てられた白色の鳥居をくぐり、長い階段を上っていくと、すぐ左側には、神明造りが際立つ本殿が目に入ります。奥まで30m少々しかないような小ぶりの境内ですが、檜皮葺きの末社も建立され、荘厳な雰囲気漂っています。佐佐波多宮の祭神は天照大神です。そして宇陀秋宮(阿紀神社)と同様に大倭国造が神田と神戸を奉ったことが皇大神宮儀式帳に記されており、宇陀では古代、神戸村があった阿紀神社の周辺と共に地域一帯が伊勢との深い関わり合いを持っていたのです。

篠畑神社の場所が宇陀の小山に特定された最も大きな要因は、熊野の聖地、神倉山にありました。神倉山と同じ経度線上、すなわち、南北一直線に並ぶ場所に篠畑神社は建立されています。それは、篠畑神社の真南に神倉山があり、その地の力をしっかりと受け継ぐこと象徴となることから古代では重要視されたことでしょう。また、その後、倭姫命の御巡幸は神倉山の経度線を越えて東方に向かうことになることから、その分岐点を目印となる拠点を設けることも重要であったと考えられます。つまり、宇陀の地、倭国を離れて、東方への長旅に出る基点となる場所でもあったのです。



篠畑神社の真新しい鳥居

南北5kmほどしかない宇陀の盆地において、神倉山と同経度線に並ぶ場所を見出し、新しい社の場所を見つけることは、天文学の知識が豊富であった古代の学者にとってはさほど難しいことではなかったのかもしれませんが。宇陀から名張にかけては北東方向に川が流れ、古代



神明造りが美しい篠畑神社本殿

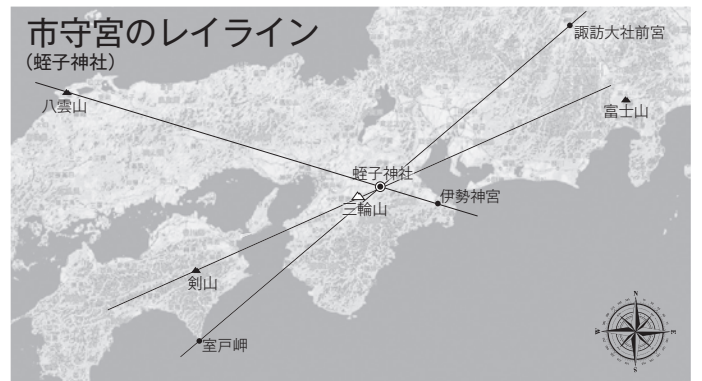
から人々が行き来できる野道があったことでしょう。そして、川に沿う道沿いの途中に、篠畑神社の地が選別されたのです。

その場所を特定するためには、レイラインの助けも得たのではないかと推測されます。これまで御巡幸されてきた遷座地を特定する際にも指標として用いられた室戸岬が、篠畑神社のレイラインでも再び姿を見せます。室戸岬と、剣の由緒に富む古代聖地、諏訪大社(上社本宮)を結ぶと、その線上に篠畑神社が存在することがわかります。このレイラインと、神倉山の経度線が交差する地点が、篠畑神社の場所です。また、後述するとおり、国生みの原点にはオノゴロ島の存在が記紀に記されています。その比定地を特定することは極めて難しいことですが、場所が徳島県小松島市の日峰神社である可能性があります。すると、天孫降臨の地として名高い高千穂と日の峰山を結ぶレイラインがびたりと篠畑神社と繋がることわかります。

市守宮のレイライン (蛭子神社)

倭国から始まった豊鍬入姫命による御巡幸は、当初、北方の丹波国、吉佐宮(真名井神社)に向かい、一旦倭国の伊豆加志本宮に戻った後、南方の紀伊国奈久佐浜国(日前神宮)を目指します。その後、神宝は西方の吉備国名方浜宮(伊勢神社)に遷座されます。これは、三輪山の聖地を中心として、北、南、西の3方向に、天皇の実権と神宝の存在と神威が流布されることを目論んだ結果とも考えられ、残るは東方へ向けての御巡幸のみとなりました。

その後、豊鍬入姫命の御一行は再び三輪山の麓に戻り、倭国の御室嶺上宮(大神神社)に神宝を遷座して、半世紀以上に及ぶ御巡幸の旅を終えられます。そして高齢を迎えられた豊鍬入姫命は、「吾日足りぬ」と語られ、その時点から神宝の行く末の鍵を握る東方への御巡幸は、妹の



倭姫命に委ねられたのです。倭姫命に託された神宝は6年の年月をかけて、過御室嶺上宮、宇多秋宮、佐佐波多宮の3か所に遷座され、倭国に留まりました。そして満を持して神宝は再び倭国を離れ、残された三輪山の東方へと向かいます。

最初の拠点が伊賀国、今日の三重県名張市にある市守宮でした。市守宮の比定地は幾つかあるものの、「隠市守宮」と刻まれた真新しい石柱が建てられている蛭子神社の周辺である可能性が一番高いようです。大型台風の際には名張市が一面、湖沼化し、川が氾濫することも頻繁にあり、蛭子神社の場所もかつては1kmほど離れた宮ノ木にあったという伝承も残されていることから、御遷幸地を特定することは難しいでしょう。しかしながら、そのような災害の歴史を繰り返したが故に、市守という名があてられるようになったのかもしれませんが。社伝には皇大神が遷られた際に、一ノ瀬の鮎が神饌として祀られたことも記載されています。そして蛭子神社の祭礼エビス市が盛んになるにつれて、蛭子神社周辺は栄えたのです。

市守宮は、倭姫命の御一行が東方へと旅立った後の最初の拠点であることから、その位置決めについては事前に、十分な協議がなされていたはずで、そしてレイラインの検証が綿密に行われた結果、市守宮がレイラインの交差点に特定されたのです。その場所に建立された蛭子神社は、複数の線が神宝に関わる拠点を結ぶレイライン上に存在するだけでなく、元伊勢の御巡幸となる次の遷座地、穴穂宮とも結び付く要因を秘めていたのです。



蛭子神社の鳥居

市守宮(蛭子神社)のレイラインにおける中心線は、剣山と三輪山を結ぶ線です。この一直線上に蛭子神社も見事に並んでいます。そのレイライン上に神宝の遷座地が求められたということは、聖地三輪山に関わる神宝の拠点として、古代の民は剣山を重要視していたことがわかります。



蛭子神社 本殿

もう一つのレイラインは、剣の由緒を持つ諏訪大社前宮と室戸岬を結ぶ線です。この2本のレイラインの交差点に蛭子神社が建立されています。また、その場所は、出雲の八雲山と伊勢神宮を結ぶレイラインにも重なっています。それは、伊勢神宮の地を最終的に特定する際に、八雲山と市守宮を通り抜けるレイラインも検討され、その線上に伊勢神宮内宮が見出された可能性を示唆しています。こうして、倭国を離れた後、東方に向かう最初の遷座地となった市守宮は、レイラインを介して三輪山や神宝に絡む大事な聖地である諏訪大社と結び付いていただけでなく、それまで遷座地と同様に、再び剣山に紐付けられることになりました。

これだけの由緒ある聖地が見事に結び付けられたレイラインの交差点に蛭子神社が建立されたということは、古代の識者がレイラインの原則に則り、熟考を重ねた上で、その場所を見出したという背景があったことに他なりません。蛭子神社が発行する案内書には、蛭子神社が古来より「市守宮(いちきのみや)」という別称で呼ばれていたことが記されてはいるものの、残念なことに、「倭姫命世紀」を伊勢遷宮伝説と称し、「架空の物語」としています。しかしながら、古代の英知は計り知れず、蛭子神社の創始と御鎮座の由来についても、レイラインの考察なくしては説明がつかいません。そして「倭姫命世紀」の記述が史実であるという前提において、元伊勢の遷宮地に関わるレイラインを全て検証すると、後述するとおり、意外な真実が浮かび上がってくるのです。「倭姫命世紀」には、辺境の各地を巡歴された倭姫命の功績が記載されていますが、その背景には多大な苦勞の積み重ねがあったことを市守宮のレイラインからも垣間見ることが出来ます。(文・中島尚彦)

引き続き、他の元伊勢御巡幸地のレイラインについても、<http://www.history.jp.com/>で紹介しています。是非ご覧下さい。

室内でも室外でも活躍する音響機器!

PA10/4
クラシックプロ 商品ID:25720

ミキサー
+
スピーカー
+
マイク(1本)

講演会やイベント、
ステージ用途に最適!
箱を開けてセッティングすれば、
すぐに音出し可能。マイクは
合計4本まで接続可能です!

25,800円
(税込 27,864円)

スピーカーケーブル&
マイクケーブル付属!

他にも色々揃えています!

持ち運びラクラクな
コンパクトセット

※マイク1本付属

ミキサー、スピーカー、ケーブル等を1つに収納可能。
コンパクトにまとまりキャスター付きで持ち運びも楽々

PAeZ **35,800円**
(税込 38,664円)

ワイヤレスマイクセット
クラシックプロ
CWM801S PLUS
29,800円
(税込 32,184円)
送信機内蔵・高音質マイクと受信機のセット!

株式会社サウンドハウス
〒286-0825千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)
TEL:0476-89-1111/FAX:0476-89-2222
www.soundhouse.co.jp

ショールームでお待ちしています!
サウンドハウス
〒286-0841 千葉県成田市大竹1630
営業時間
平日 10:00~19:00
土曜 12:00~17:00
日曜/祝日 休業

カリフォルニアの美味しい水 アクアヴィル

AQUAVILLE

2ケースセット! 計48本

500mlボトル 24本入



2ケース
税・送料込 **1,858円**

※一部離島を除く

◀携帯でのご注文はこちら

フィットネスハウス **0476-89-3111**



天然温泉の配膳スタッフ募集

【業務】静かな温泉施設内、レストランの配膳業務
【資格】車通勤可(大駐車場完備)、未経験者も歓迎
【時間】9:30~21:30、1日3時間上で応相談
土日祝日できる方、主婦・学生歓迎
【給与】時給 900円
【待遇】社保完備、従業員家族を当館へ無料優待
【応募】下記へ電話連絡の上、履歴書を持参ください
※クリーンスタッフ及び正社員も同時募集、お問い合わせください



大和の湯
〒286-0841
千葉県成田市大竹 1630

お問合せ **0476-28-8111**
e-mail: info@yamatonoyu.com (担当:採用係)

彩りの四季を 存分に感じる天然温泉

露天風呂<富士見の湯>

すき鍋フェア

【期間限定】11月30日(日)まで

滋味に富んだ
秋の香りと味覚

月...1,480円

鍋、ごはん、刺身、汁物、
小鉢、香の物

花.....1,200円

鍋、ごはん、汁物、小鉢、香の物

雪.....1,680円

鍋、寿司3貫、そば、天婦羅、小鉢

今季おすすめ 数量限定 ワイン

日本各地から選りすぐったこの秋にピッタリのワイン!

シャトーメルシャン アンサンブル 萌黄 高畠ル・オール カベルネ&メルロ

白 <グラス>...480円 赤 <グラス>...600円

※他、全6種類

※おすすめワインをボトルでご注文いただいたお客様に、「小さなおつまみプレート」をプレゼント!

<キリトリ>

平日限定
お食事**200円引**
1000円以上のお食事の際に
ご利用いただけます
※退館時、フロントにご提示ください
※お一人様一席限り有効
有効期限 2014年11月28日

<キリトリ>

平日限定
お食事**200円引**
1000円以上のお食事の際に
ご利用いただけます
※退館時、フロントにご提示ください
※お一人様一席限り有効
有効期限 2014年11月28日

大和の湯 IF YAYOIスパ&フィットネス [営業時間] 11:00~21:00
今月のおすすめメニュー アロマセラピー 4,500円(30分)~

ご案内

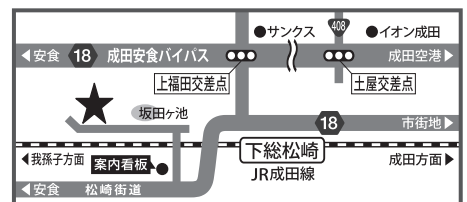
入館料 [平日] 700円 / [土日祝] 1000円

※小学生の入館料: 300円 (大人同伴の入館の場合)

営業時間 10:00~22:00

※年中無休(全館禁煙)

未就学児の入館は
ご遠慮ください



www.yamatonoyu.com

TEL **0476-28-8111**



WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。
本紙のバックナンバーは WEB サイトにてすべてご覧頂けます。
連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新して
スペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめて
あります。ご意見・ご要望等をお待ちしております、FAX や
ホームページからお寄せ下さい。

日本シティジャーナル: <http://www.nihoncity.com/>
日本とユダヤのハーモニー: <http://www.historyjp.com/>



編集後記

ふとしたきっかけで、紅葉の季節が始まる吉野
の自然にふれてきました。和歌山からローカル
な紀伊線を乗り換えて、やっと辿り着いた吉野
は、自然と情緒に満ちた美しい町でした。
南北朝時代に、後醍醐天皇が京都を偲んで
号泣された場所に立つと、ふと、時代の流れを
忘れ、紅葉がかった山々の先にある都が目に
浮かぶようでした。持統天皇、弘法大師らも
愛された吉野は、今や世界遺産となり、多くの
外国からのビジターが訪れています。皆さんも
ぜひ、一度は訪ねてみてください。

NCJ 編集長 中島 尚彦

1957年東京生まれ。14歳で
米国に単身テニス留学。ワートン
ビジネススクール卒業後、ロス
アンゼルスにて不動産デベロッ
パーとして起業。ビジネス最前線
で活躍する。1990年に帰国後、
成田にサウンドハウスを立ち上げる。
現在ハウスホールディングス代表、
日本シティジャーナル編集長を
兼務。趣味はアイスホッケーと
読書。ここ数年は「日本とユダヤの
ハーモニー」の執筆に勤しむ。

